

# 海洋スポーツ・レクリエーションにおける失敗知識データベースの構築 ～手漕ぎ船舶における事故事例を中心として～

1714009 宇摩谷 望 (海洋スポーツ・健康科学研究室)

## I. 研究の目的

日本国内では毎年一定数の手漕ぎ船舶による海難が発生している。海上保安庁が発表しているデータによると、年度ごとに偏りがあるものの、毎年数十件の事故が発生しており、死亡者が発生している年もある。本研究では、海洋スポーツ・レクリエーションにおける安全対策に資する基礎的な資料作成を目的として、事故事例から得られた失敗知識情報を作成するとともに web 上で閲覧可能なデータベースの作成を試みた。

## II. 研究の方法

本研究では、国土交通省の外局として、航空・鉄道・船舶事故等の原因究明と再発防止策を講ずることを目的に設置された、運輸安全委員会(JTSB)が発行している船舶事故調査報告書を中心として、海上保安庁が発行する安全対策推進のための資料及び、産経 WEST、八重山毎日新聞等の新聞記事等から、3つの種類の船舶(シーカヤック、カヌー、手漕ぎボート)に関する、2005年3月～2020年1月に発生した事故データを収集した。収集した50件のデータについて、事故事例から得られる教訓を知識化して示すための資料を作成するとともに、web上で閲覧可能な形態にデータを加工し、各船舶における事故の形態について整理した。

## III. 結果と考察

収集した50件の事故に関するデータは、シーカヤックが15件、カヌーが6件、手漕ぎボートが29件であった。シーカヤック及びカヌーにおける事故形態では、共に「行方不明」が最も多く、天候や海象に悪条件が予測される場合は出艇しない判断が、安全対策において最も有効であることが示唆された。また、単独出艇時の安全対策の充実が今後の課題である。手漕ぎボートにおける事故形態は、「衝突」が最も多く全体の62%を占めていた。手漕ぎボートが周囲の他船から発見されるよう、周囲に自艇の存在を示す対策を講じる必要があることが把握できた。

## IV. おわりに

本研究では、手漕ぎ船舶における事故事例について、原因を作り出した脈絡を理解できるよう、知識化に注目したデータベースを作成し、事故形態についての特徴を整理した。今後は、手漕ぎ船舶に限らず、海洋スポーツ・レクリエーション全般における事故事例の収集を行い、データベースのコンテンツを充実させる必要がある。

## 主な参考文献

井村仁・橋直隆：野外運動に関する研究論文データベースの作成と研究動向の分析， 野外教育研究， 1(1):33-44, 1997.